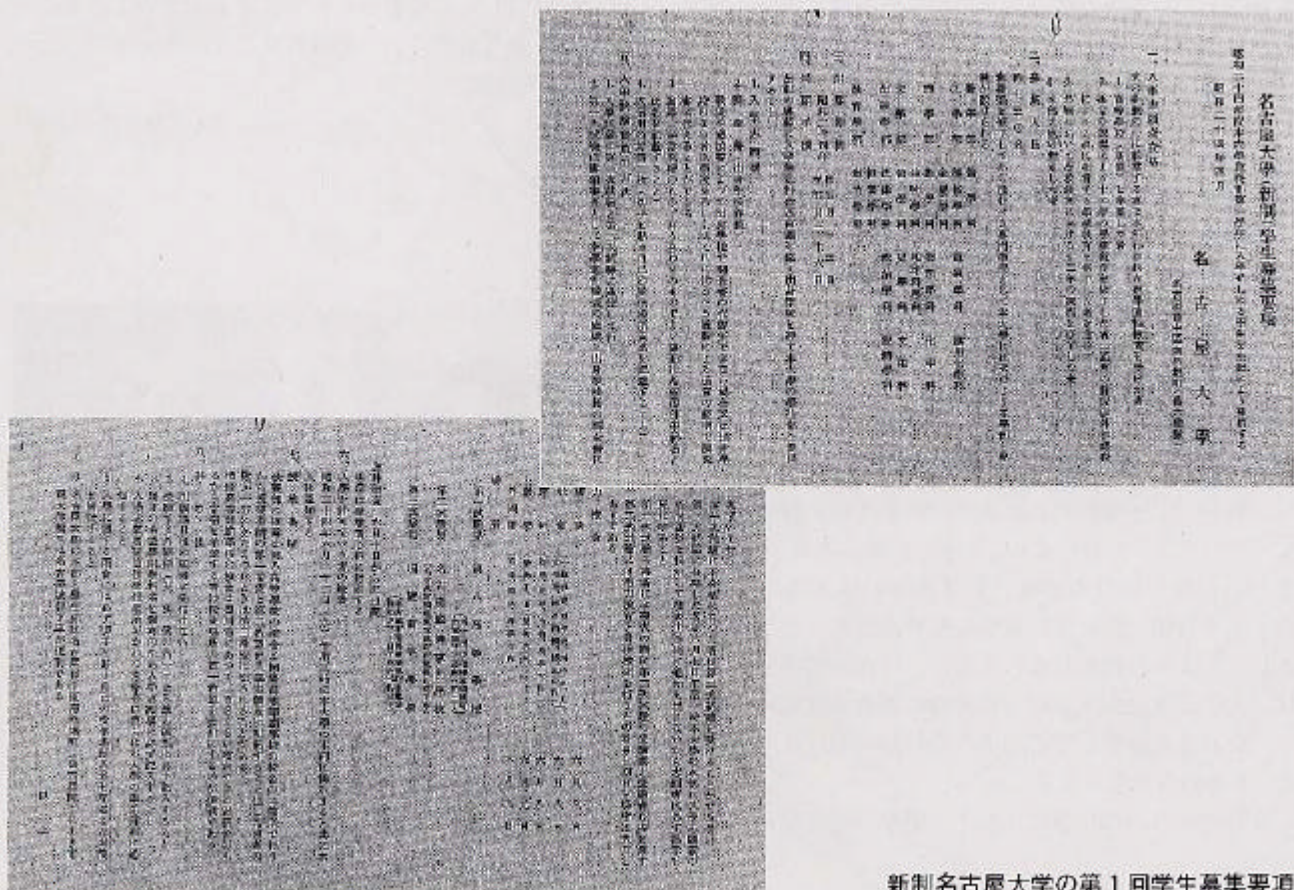


# 名古屋大学史資料室ニュース

## 創刊号

## 目次

創刊の辞	2
名古屋大学史資料室規程	3
名古屋大学史資料委員会規程	3
名古屋大学史資料室設置経緯	4
史林遍歴(1)	6
資料室利用に関する申し合わせ	8
「名古屋大学史紀要」について	8
資料室日誌(抄)	9



# 創刊の辞

名古屋大学史資料室長 篠田 弘

ここに、「名古屋大学史資料室ニュース」の創刊の言葉を書くことができるようになったことは、誠に幸せであるといわざるを得ません。一昨年の今頃は、大学史（通史）の完成が遅れ、後どれだけの日数をかければこれを発刊できるだろうかと思ひ、大学史編集室の助手諸君に「今年は正月は無いよ」などと言ったり、昨年の今頃は、資料室の設置は可能としても、一体どのような形態で可能となるのであろうかなどと思ひ悩んでいました。

資料室が、無事今日を迎えることができたのは、加藤総長を初め全学の皆さんのご協力のお陰であり、心から感謝しております。

五十年史を編纂する過程で収集された資料は、多種多様で、その量も極めて多くあります。その中には、公文書類はもとより、個人所蔵の記録・書簡・講義ノート・蔵書類、学生団体等が発行した新聞・雑誌・ビラ類、同窓会等の会報・名簿類、さらには聞き取りの記録類や絵図類等が含まれています。これらはいずれも貴重な史料であり、なかには一度散逸してしまった場合には、容易に再収集することができないものも多数見られます。また、旧・現教職員及び卒業生の皆さんの篤志により寄贈され、あるいは複写することのできた史料も少なからず存在します。しかもこれらは、単に大学史編纂のみならず、広く文化史、行・財政史、地域史、教育史等の史料となるような貴重な文化遺産としての性格も合わせ持っています。

また五十年史編纂の過程で活用できた本部事務局や各部局等が保管している各種委員会等の記録類や重要事務文書等の公文書類も、今後の沿革史編纂等のために利用しやすい形で整理され、保存される必要があります。

今回の五十年史編纂に際して、名古屋大学として初めての年史編纂であったこともあり、基本史料の総てが、必ずしも総合的・系統的に整理・保管されておらず、また、昭和14（1939）年という大学設立の時期のためもあり、戦災・災害等のために重要史料が焼失・散逸してしまっていたことなどにより、大きな困難に直面しました。また、建物や施設の移転、新築あるいは部課の改編統合・人事異動に際して、重要な史料が散逸したり、廃棄されてしまった例も見られました。現在、名古屋大学では、大学改革やキャンパス再開発が進められていますので、資料室を活用してこのような危険を避ける方策が考えられなければなりません。

資料室の当面の仕事は、五十年史の刊行が遅れたため

に、未整理のまま残されている多量の文書を整理すること、また、これから収集・整理・保存する史料の範囲及び収集形態を確立すること等でありますが、何よりもまず、資料の公開を含め、資料室のあり方の原則が定められなければなりません。現在、資料室では、名古屋大学史資料委員会の議を経て、この問題の原案の作成に取りかかろうとしております。また、「医学部紛争」関係の資料を保管されておられる旧教職員の方々から、資料室が設置されたのを機に、資料移管のお申し出がありましたので、移管資料の範囲や移管方法等について第1回の会合を持ち、漸次移管を進めていくことになりました。

アメリカやヨーロッパでは、多くの大学が文書館（Archives）を持っており、国、州や市などの文書館などと共に活用されていますが、日本の大学は、これまで、一部の私立大学を除き、国立大学は大学文書館といえるものを持っておりませんでした。しかし、近年、これを持ちまた持とうとするいくつかの大学が見られます。

大学文書館は如何にあるべきか。それは今後の課題ですが、全学的な合意と協力のもとに、大学史資料室が中心となり、大学史資料の収集・整理・保存並びに調査・研究を継続して、模範的な大学文書館ができ上がることを願っております。大学史資料室ニュースがその一助ともなれば幸いです。

（教育学部教授）



# 名古屋大学史資料室規程

制定 平成8年4月1日

(設置)

**第1条** 名古屋大学史に係わる資料の恒常的な収集、整理、保存及び活用並びに調査及び研究を行うため、名古屋大学史資料室（以下「資料室」という。）を置く。

(業務)

**第2条** 資料室は、次の各号に掲げる業務を行う。

- 一 名古屋大学史編集委員会が収集した資料の整理及び保存
- 二 名古屋大学史に係わる資料の収集、保存及び活用
- 三 名古屋大学史及び高等教育史に関する調査及び研究
- 四 前各号に定めるもののほか、資料室の業務に関し必要と認められる事項

(室長)

**第3条** 資料室に室長を置く。

- 2 室長は、本学専任の教授のうちから総長が任命する。
- 3 室長は、資料室の業務を掌理する。

(室員)

**第4条** 資料室に専任室員若干名を置く。

- 2 専任室員は、教官をもつて充てる。
- 3 第1項に定めるもののほか、資料室に兼任室員を置くことができる。
- 4 室員は、室長の指示に従い、資料室の業務に従事する。

(名古屋大学史資料委員会)

**第5条** 資料室の運営に関し必要な事項を審議するため、名古屋大学史資料委員会（以下「委員会」という。）を置く。

- 2 委員会に関する事項は、別に定める。

(事務)

**第6条** 資料室の事務は、総務部総務課において処理する。

(細則)

**第7条** この規程の施行に関し必要な事項は、委員会の議を経て、総長が定める。

附 則

この規程は、平成8年4月1日から施行する。

# 名古屋大学史資料委員会規程

制定 平成8年4月1日

(設置)

**第1条** 名古屋大学史資料室規程第5条第2項の規定に基づく名古屋大学史資料委員会（以下「委員会」という。）に関する事項は、この規程の定めるところによる。

(委員)

**第2条** 委員会は、次の各号に掲げる委員をもつて組織する。

- 一 名古屋大学史資料室の室長（以下「室長」という。）
  - 二 学部、大学院国際開発研究科、大学院人間情報学研究科、大学院多元数理科学研究科、附置研究所、言語文化部及び総合保健体育科学センターの教授又は助教授各1名
  - 三 医療技術短期大学の教授又は助教授1名
  - 四 附属図書館長
  - 五 事務局各部長
  - 六 前各号に掲げる者以外で委員会が適当と認めたる者
- 2 前項第二号、第三号及び第六号の委員は、総長が任命する。

(委員長)

**第3条** 委員会に委員長を置き、室長をもつて充てる。

- 2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

(副委員長)

**第4条** 委員会に副委員長を置き、委員のうちから委員長が指名する。

- 2 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に支障があるときは、その職務を代行する。

(意見の聴取)

**第5条** 委員会が必要と認めるときは、委員以外の者の出席を求め、その意見を聞くことができる。

(庶務)

**第6条** 委員会に関する庶務は、総務部総務課において処理する。

(細則)

**第7条** この規程の施行に関し必要な事項は、委員会の議を経て、総長が定める。

附 則

この規程は、平成8年4月1日から施行する。

## 名古屋大学史資料室設置経緯

名古屋大学史資料室は、1996（平成8）年4月1日に学内措置として新設された共同教育研究施設である。資料室設置にあたっての直接的契機は名古屋大学史編集委員会が1995年7月に加藤延夫総長に提出した「名古屋大学史資料の収集・保存・活用体制についての提言」（後述）に求められるが、それに至る経緯は20余年前にまで遡ることができる。以下、そうした前史を含めた名古屋大学史資料室設置の経緯を整理しておく。

### 前史—『名古屋大学史』編纂構想

1974（昭和49）年2月、名古屋大学附属図書館商議員会内に名古屋大学関係史料委員会（以下、史料委員会という）が設けられた。史料委員会は、「社会情勢の急激な変化のなかで文化財の破損と史（資）料煙滅の度が急速に加わっている」との認識から、名古屋大学関係史（資）料の収集・保存にあたることを基本的目的とし、さらには収集された史（資）料の展示・公開を通じて名古屋大学に対する史的把握とその社会的役割に対する関心を広範に喚起することも目的として設置された。また史料委員会は、自らの資料収集・保存活動が将来的に『名古屋大学史』編纂事業に発展することについては慎重な姿勢をとりつつも、収集されるべき資料の基本的視点として「通史編」「学部及び教養部編」「附置研究所編」「包摂校編」「索引」という領域を設定していた。この史料委員会の設置の背景には、1939年の名古屋帝国大学の発足後35年が経過し、当時の関係者が順次大学を離れていくことになるので、将来の大学史編纂準備の意味も込めて関係資料の収集・保存を全学的規模で行おうとする意図があったのである。

その後、史料委員会は関係資料の収集・保存活動に力を注いだ。その過程で1979年に本学が創立40周年を迎えることが強く意識されるようになり、次第に『名古屋大学史』編纂に向けての機運が高まってきたのであった。従前、本学では各部局によって個別に部局史が刊行されたことはあったが、全学的な大学史編纂が行われたことはなかった。関係資料によれば、1939年6月に名古屋帝国大学設立記念事業の一環として医学部学友会が本学の前身である愛知医科大学史を中心とした大学史編纂・刊行を企画していたことが確認できる。しかし、これは実現するに至らなかった。したがって、大学史関係資料の収集・保存活動が発展的に大学史編纂活動へと移行したことは、いわば必然的であったとも考えられる。

1975年7月、本学評議会は、芦田淳学長の下に名古屋大

学歴史編さん準備委員会を設置し、さらに翌1976年11月には同委員会を名古屋大学歴史編さん委員会（以下、歴史編さん委員会という）に改称した。その名称が示すように、両委員会は大学史編纂を主目的としたものであり、大学史関係資料の収集・保存は、その過程で必要とされたのである。ただしその後の歴史編さん委員会ならびに評議会における検討では、記念事業は50周年を主体的に考え、40周年は年表を中心とした小冊子の刊行と附属図書館における資料展示会の開催にとどめる方針が決定されている。歴史編さん委員会は1977年3月以降具体的な活動を開始し、学内刊行物調査や年表作成のための情報収集を行ったが、最終的には所期の成果を得ることができず1979年度限りでその活動が事実上打ち切られることとなった。

### 名古屋大学創立50周年記念事業

1983年9月、学部長会（後に部局長会と改称される）において名古屋大学史編纂に向けた取り組みが再び取り上げられた。その提案は、教育学部において同年6月頃から検討されていた『『名古屋大学五十年史』企画試案』に基づくものであった。その後、この企画は学部長会ならびに評議会で審議され、最終的には名古屋大学創立50周年記念事業の一つに位置づけられることとなった。

1985年1月、評議会は名古屋大学創立50周年記念事業委員会を設置し、このとき同時に名古屋大学史編集委員会（以下、編集委員会という）が設置された。編集委員会は名古屋大学史の編集・刊行に関する重要事項を審議する全学的委員会であり、同年4月には同委員会内に大学史の編集および資料収集を行うため名古屋大学史編集室（以下、編集室という）が置かれた。

その後、編集委員会ならびに編集室は名古屋大学史編纂に取り組み、1991年末までに『名古屋大学五十年史（部局史一・二）』、『写真集名古屋大学の歴史1871～1991』を順次刊行した。この間、『名古屋大学五十年史（通史）』の原稿執筆および編集作業も徐々に進められていった。

### 調査報告書「名古屋大学における大学史資料の収集・整理・保存のあり方」

『名古屋大学五十年史（通史一・二）』原稿の編集作業が大詰めを迎えていた1994年10月、編集委員会で大学史編纂事業終了後の大学史関係収集資料の取り扱いについて審議が行われた。編纂事業終了後の関係資料の収集・整理・保存についての検討は、大学史編纂事業を目的とする編集委員会の本来の任務を越えた事項である。しか

し、すでに収集された貴重な資料群を散逸させることなく整理・保存していく体制の確立に関して責任ある検討を行うことが学内外からの多大な協力を得て大学史編纂事業を推進してきた名古屋大学としての責務であるとの認識から、編集委員会はその検討を開始したのであった。

その結果、編集委員会は、大学史編纂事業が終了する1995年度末までに委員会としての検討結果をまとめ、最終的に総長に対して提言を行う方針を固めた。そしてそれに先だって、編集委員長および副委員長で構成する常任編集委員会が他大学等の状況について調査・検討を行い、その調査報告書を編集委員会に諮ることとなった。なお、これに先立つ同年2月に編集室は独自に「大学アーカイブズ整備の動向（報告）」を作成して常任編集委員会に提出しており、それが常任編集委員会における調査・検討の際にも活用された。

翌1995年2月、常任編集委員会がまとめた調査報告書「名古屋大学における大学史資料の収集・整理・保存のあり方について」（A4版24頁）が編集委員会で審議された。同報告書の「結論」部分には、「<名古屋大学内に大学史資料の恒常的な収集・整理・保存および調査・研究のための機関として名古屋大学資料室（仮称）を設置すること>が望まれる」との文言があり、編集委員会はこの「結論」部分を総長への提言とすることとした。これをうけて同月、篠田弘編集委員長は総長への提言を行った。その後、同月に開催された名古屋大学創立50周年記念事業委員会において、総長から名古屋大学資料室（仮称）の設置についての検討依頼が各部局に対してなされた。

## 提言書「名古屋大学史資料の収集・保存・活用体制についての提言」

1995年7月、編集委員会において再び大学史資料の収集・整理・保存のあり方についての審議が行われた。同年6月、名古屋大学資料室（仮称）の設置について各部局に異論がなかったことを踏まえ、総長から名古屋大学資料室（仮称）の具体的内容の検討を編集委員会に付託したいとの申し出がなされたためであった。審議の結果、編集委員会は総長からの申し出をうけて、その原案作成を常任編集委員会に委ねることとした。

同年8月、「名古屋大学史資料室」（以下、資料室という）および「名古屋大学史資料の収集・保存・活用に関する委員会」（以下、資料に関する委員会という）の設置を内容とする編集委員長案が常任編集委員会で審議され、この委員長案を常任編集委員会案として編集委員会に提案することが承認された。翌9月、この常任編集委員会案が編集委員会において審議・承認され、同案は「名古屋大学史資料の収集・保存・活用体制についての提言—『名

古屋大学史資料室』および『名古屋大学史資料の収集・保存・活用に関する委員会』の設置について—」（A4版8頁、名古屋大学史編集委員会）として直ちに総長に提出された。

## 名古屋大学史資料室の設置

1995年9月、名古屋大学創立50周年記念事業委員会が開催された。この席上、編集委員長から総長への提言内容の説明が行われた後、総長から資料室および資料に関する委員会の設置を同日開催予定の部局長会に諮ることが提案され、それが承認された。そして翌10月、評議会において資料室および資料に関する委員会を学内措置として1996年4月より設置することが承認された。

評議会による設置承認をうけて、1995年11月には編集委員会が開催された。そこでは本部事務局が作成した資料室ならびに資料に関する委員会の学内規程案が提案・審議され、最終的に両規程案は翌12月の編集委員会において「名古屋大学史資料室規程」ならびに「名古屋大学史資料委員会規程」として承認された。なお、この間に資料室と名古屋大学史資料委員会（資料に関する委員会が改称されたもの。以下、資料委員会という）との関係については、後者が前者の運営委員会として整理された。

編集委員会での承認を経た両規程案は、同月の部局長会に提案され、翌1996年1月の評議会において原案どおり承認された。また、同年2月の部局長会には資料室設置に伴う教官欠員の流用が提案され、翌3月の評議会でそれが承認された。これによって、資料室ならびに資料委員会の1996年4月設置への手続きが完了したのであった。

以上、名古屋大学史資料室が設置されるまでの経緯について、その前史を含めて整理を行った。その過程は、史料委員会が大学史資料の散逸防止ならびに同資料の活用（展示・公開）を目的として収集・保存活動を開始したことが契機となり、後に大学史編纂の取り組みが構想され、それが『名古屋大学五十年史』という形で結実し、同時にその大学史編纂事業が大学史資料の恒常的な収集・整理・保存・活用ならびに調査・研究の重要性・必要性を全学に強く認識させることになったことを示している。その意味において名古屋大学史資料室は、いわゆる大学アーカイブズとしての機能を備えるべく設置されたといえることができる。

## 史林遍歴（その1）

### 名古屋大学史資料室保存資料の概要

当資料室に保存されている資料は、主に1985（昭和60）年4月から1996（平成8）年3月まで設置されていた（資料室の前身である）「名古屋大学史編集室」が『名古屋大学五十年史』編纂のために収集した資料を引き継いだものである。編集室時代は、『五十年史』編纂が急を要する第一の課題であったため、その間資料を整理するための時間を割くことは、ほとんどできなかった。唯一、他大学から寄贈された大学史や紀要・資料集等および編集室が独自で購入した書籍類等約2700点について、整理番号を付した仮目録を作成したのが整理作業といえようか。しかし、多くの資料については全く整理されていないのが現状である。特に大学事務関係の書類綴や教職員等の個人が寄贈された資料については文書等の1枚物が多く、整理番号さえも付されていない状況である。

そこで、これら編集室時代に収集された資料や、また今後定期的に増えていくであろう学内刊行物や事務文書、および新しく寄贈されまたは収集するであろう大学史関係資料を、恒常的に整理・保存・活用するために、新しく1996年4月に設置されたのが現在の資料室である。すでに資料室発足後から、資料の整理には着手しているが、残念ながら資料内容の詳細までここに報告することは、今の段階ではまだ出来ない。ただ、整理のための予備作業として行った、資料の概要調査はすでに終わっているので、その結果をここに紹介しておきたい。

保存資料全体は約7000点ほどであり、その内書籍類が約3700点と半数以上を占めている。しかし段ボール箱に入れてあったりやファイルに綴られた資料は1枚物を多く含んでおり、きちんと整理すれば点数が飛躍的に増加するのは目に見えている。おそらく整理が完了すれば総点数は1万点を優に越え、その増加分のほとんどは1枚物であると思われる。

上述のように保存資料はまだ整理が済んでおらず、内容も十分に把握できていないので、きちんとした分類もできる段階ではないが、とりあえず、名古屋大学に関する資料（学内関係資料）と他大学等に関する資料、高等教育史を含む教育史一般に関する資料、文部省を中心とした教育行政に関する資料、編集室・資料室の業務に関する資料（大学史編纂時の原稿等を含む）、未調査で内容不明の資料に便宜的に分けてみた。

第1の学内関係資料は全部で約2800点あり、保存資料全体の40%を占め、分類中いちばん点数が多い。この資料をさらに各部局に関する資料と全学に関する資料と事務に関する書類等の資料の3つに分けてみた。

各部局関係資料は約1100点あるが、その内の半数以上は名古屋大学新聞である（590点）。部局別では、やはり前身の歴史が古い医学部の資料が圧倒的に多い。愛知県医学校時代の通称『院校報告』（現在の大学一覧にあたる。詳しくは井上知則「愛知（県）医学校・病院刊『院校報告』』についての若干の考察—『学校一覧』の史料価値検討の一助として—」（『名古屋大学史紀要』第2号、1991年）を参照）をはじめ、『医学部九十年史』などの医学部が独自で作成した学部史、同窓会（交友会、鶴天学友会、学友会等）資料等の医学部に直接係わる資料だけでなく、医学や医師会などその関連資料もあり多岐にわたっている。その点数は約330点ほどであり、各部局関係資料全体の3分の1、名古屋大学新聞を除けば6割以上がこの医学部資料ということになる。

他の部局では、第八高等学校については『学校一覧』等、経済学部については名古屋経済専門学校時代の新聞や同窓会であるキタン会関係の資料、教育学部については旧岡崎高等師範学校時代の関係資料、工学部については『工学部五十年史』や『応化合成会報』などがある。その他、各学部・大学院各研究科・学内各研究所等の概要や案内の冊子またはパンフレットも一部ではあるが保存している。また学内諸団体では、先の『名古屋大学新聞』をはじめ『生協ニュース』『祖国と学問のために』などの新聞類、名大祭パンフレット、体育会の会報である『濃緑』等もある。

全学に関するもの（約1000点）では、まず帝国大学設置期や新制大学移行期に関する資料として、愛知県会議録・官制改正に関する書類・連合軍指令綴等がある。別に新制大学発足以降における学部大学院設置申請の関係書類もある。学内刊行物は『名古屋大学一覧』『名古屋大学要覧』『名大ニュース』『学報』『名古屋大学概要』『名古屋大学研究者一覧』『学生便覧』等があり、基本的なものは一応揃っている。また生協が毎年作製している新入生・卒業生のアルバム・名古屋大学公開講座のテキスト・入試関係書類も一部ではあるが保存している。その他、教職員の回顧録・入学式関係・大学紛争関係の資料もある。

事務関係（約700点）では、各種の大学事務書類綴・例規類集・諸規定・諸記録・報告書等が約250点を占める。また庶務関係の綴りが約300点ほどある。その他名古屋大学職員録・職員手帳や、事務の参考資料としての行政や法律の専門書も入っている。

資料室では、他大学の大学史はじめ大学史紀要、資料集、ニュース・たより類、写真集等も保存している。全部で約650点ほどであるが、その多くは寄贈されたものである。別に大学史関係以外の、他大学の資料も約160点ほど複写保存している。その他大学史連絡協議会・国立大学協会等の資料も約50点ほどある。またこの地域の資料

として愛知県議会史・愛知県教育史・愛知県昭和史等の愛知県・名古屋市の歴史地理関係の書籍が約50点、および寄贈されたものが中心であるが社史や大学以外の学校史も約60点ほどある。これら他大学等の資料は合わせて約1000点ぐらいになる。

教育史一般の資料として、『日本教育史資料』『近代日本教育制度史料』『日本近代教育百年史』『明治以降教育制度発達史』をはじめ、近代教育史の基本的な文献は一応揃えている。この他、先述の個々の他大学史とは別に、大学全体の高等教育史や一般教育史から、現代における大学改革・大学問題等にいたるまで、各種教育関係の資料もあり、これらは書籍を中心として全部で約500点に及ぶ。

教育行政関係の資料は約200点あるが、文部省関係のものが圧倒的に多い。『文部省通達綴』『文部省年報』『文教ニュース』『文部省例規類纂』『文部省職員録』等がある。

編集室の業務に係わるものとしては、『名古屋大学史』編纂の過程で作成された資料がある。通史・部局史・写真集はもとより稿本・紀要発刊のための資料カード・原稿・校正がある。特に写真集発行のために作られた写真ファイルとその目録である写真カードが多い。また通史編纂の財政的母体となった『名古屋大学創立五十周年記念事業後援会』関係の資料もある。このほか資料室の日

常業務に係わる書籍（事典・辞典や資料管理等）があるが、これも将来的には資料室利用の際の参考図書となるものであり、その意味で資料として考えてよいであろう。以上、編集室・資料室の業務に係わる資料は約1000点に及ぶ。

最後に未だ内容が十分にわかっていない資料が約1500点ほどある。これは主に学内教職員が寄贈された資料で、寄贈されたときの段ボールに入れられた状態のままで、整理されず保存されているものも多くある。1人の教職員の資料であっても、書籍・メモ・ノートから新聞の切抜・スクラップ・コピーまで、資料の形態からして多岐にわたっている。内容も所属していた部局のものだけでなく、全学委員会の資料や名大祭・生協等学内諸団体の資料も含まれていることも多く、現状のままでは十分な仕分け＝分類が出来ない状態である。ただ、これらの資料がきちんと整理されれば、先述したようにかなりの点数になるのは確実であり、また資料の内容もさらに広範囲に広がるであろう。

以上が資料室保存資料の概要である。現在順次資料を整理しているが、まずは大学史編纂に用いるために前編集室が収集した資料、および寄贈された資料の目録を刊行したいと考えている。

表 名古屋大学史資料室保存資料概要

第1分類	第2分類	書籍類 冊	ファイル(大) 綴	ファイル(小) 綴	ボックスファイル 箱	袋 袋	段ボール 箱	1枚物 点	包み 枚	計
学内関係		1182	752	228	2	17	8	590	15	2794
	各 部 局	433	60	16	1	1	8	590	0	1109
	全学関係	506	308	123	1	16	0	0	15	969
	事 務	243	384	89	0	0	0	0	0	716
他大学等		797	173	0	3	0	0	0	0	973
教 育 史		466	45	0	1	0	0	0	0	512
教育行政		143	52	3	0	0	0	0	0	198
編 集 室 資 料 室		264	223	378	63	22	13	0	56	1019
内容不明		871	179	150	16	105	78	81	0	1480
計		3723	1424	759	85	144	99	671	71	6976

## 資料室利用に関する申し合わせ

現在名古屋大学史資料室が保管する資料群の概要については、別項に示したとおりである。今後収集されるであろう資料も含め、その有効な活用が期待される所である。ただし、資料に盛り込まれている情報の質は様々であり、個人のプライバシーに関わる情報を含む場合などは、とりわけ慎重な取り扱いが求められる。そのため、資料室では、資料公開の基準の制定に向けた取り組みとして、ワーキンググループによる検討の準備を進めている。

しかし、公開の基準が制定されるまで資料室の資料が一律に凍結されるのでは、前身となる名古屋大学史編集室が対応していた程度の照会業務さえも不可能となってしまうため、1996（平成8）年7月12日に開催された名古屋大学史資料委員会（第2回）において、資料室保管資料の利用・取り扱いに関する暫定的指針として、以下のような申し合わせをおこなった。

### 名古屋大学史資料室の 利用についての申し合わせ

名古屋大学史資料室が保管する資料の取り扱いについては、資料の公開に関する基準等の取り決めがなされるまで、下記により行うこととする。  
ただし、名古屋大学史および高等教育史に関する照会については、適宜これに応ずるものとする。

- 1 資料の閲覧 刊行された資料については原則として閲覧に供する。  
その他の資料については原則として閲覧に供しない。
- 2 資料の貸出 原則として行わない。
- 3 資料の複写 原則として行わない。
- 4 その他 資料に関するその他の依頼については、室長の判断による。

以上

## 『名古屋大学史紀要』について

名古屋大学史資料室では、名古屋大学史編集室が刊行していた『名古屋大学史紀要』を継続刊行します。

現在は、今年度末に第5号を刊行すべく準備を進めており、研究論文・研究ノート・資料紹介等の執筆希望者を募っています。当面の申込締切は9月30日で、申込用紙に必要事項を記入の上、資料室まで申し込んでください。

なお、『名古屋大学史紀要』については、毎年度執筆希望者を募りますので、資料室までお問い合わせください。

### 『名古屋大学史紀要』編集要領

編集委員長 篠田 弘  
編集委員 三鬼清一郎、河野 恭廣  
編集幹事 神谷 智、中村 治人、山口 拓史

#### 名古屋大学史紀要編集要領

- 一、本誌は、名古屋大学史および高等教育史に関わる研究論文、研究ノート、史資料紹介等を掲載する。
- 二、本誌に論文等を掲載しようとする者は、所定の投稿要領に従い編集事務局に送付するものとする。なお投稿者については学内外を問わない。
- 三、原稿の掲載は編集委員会の審議を経て決定する。
- 四、掲載予定の原稿について編集委員会は、執筆者との協議を通じて内容の修正・変更を求めることがある。
- 五、編集事務局は、名古屋大学史資料室におく。

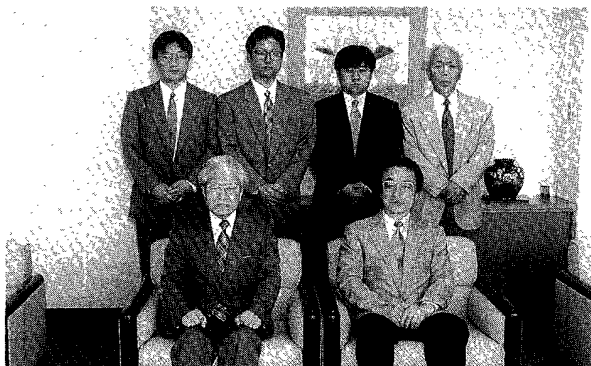
#### 名古屋大学史紀要投稿要領

- 一、論文原稿は原則として未発表のものに限る。
- 二、投稿の内容に従って、編集委員会が原稿の分量を指定することがある。
- 三、原稿は英文タイトルを付けて送付するものとする。
- 四、原稿は、氏名、所属（職名その他を含む）、連絡先を付記し編集事務局に送付するものとする。



## 資料室日誌（抄）

- 4月 1日 名古屋大学史資料室設置。
- 4月 8日 医学部卒業生より、第八高等学校および旧制高等学校一般における入試科目・授業科目につき照会。
- 4月 9日 教育学部教員より、他大学の年史の刊行状況および所蔵につき照会。
- 4月12日 名古屋大学史資料委員会（第1回）開催。
- 4月15日 医学部事務員より、医学部建物外観の写真所蔵につき照会。
- 4月17日 本部事務員より、医学部の前身にあたる「義病院」の名称につき照会。
- 4月19日 元職員、旧制大学の学年暦の変遷につき照会のため来室。
- 4月25日 本部事務員より、第八高等学校が1944年に購入した土地につき照会。
- 5月 2日 テン制作スタジオより、名古屋大学消費生活協同組合発行の学生アルバム掲載記事の名古屋大学沿革について、記事内容の校閲・追加等の依頼。
- 5月16日 資料室専任室員として、神谷智助手就任。表札上掲式（揮毫加藤延夫総長）。
- 5月20日 山口助手東京出張（東日本大学史連絡協議会1996年度総会参加、国立国会図書館調査、21日まで）。
- 5月22日 本部事務員より、名古屋大学創立五十周年記念事業に関する『名古屋大学五十年史・通史』記述の典拠につき照会。  
愛知淑徳大学教員より、他大学の年史の所蔵につき照会。
- 5月31日 東北大学記念資料室より、名古屋大学史資料室所蔵の東北大学関係史料につき照会。
- 6月10日 本部事務員より、医学部の前身校愛知医科大学の建設業者につき照会。
- 6月14日 名古屋大学史常任資料委員会（第1回）開催。
- 7月 1日 医学部附属病院分院事務員より、1943年以降の附属病院患者数につき照会。
- 7月11日 福岡大学教員より、名古屋大学五十年史編纂経緯につき照会。
- 7月12日 名古屋大学史常任資料委員会（第2回）開催。  
名古屋大学史資料委員会（第2回）開催。
- 7月25日 井上俊名誉教授、山田鎌一名誉教授、山田信也名誉教授、村地俊二元医学部助教授、神谷昭典元医学部助手より医学部関係資料提供の申し出があり、その保存・活用等につき懇談。  
工学部卒業生より、1945年前後の第八高等学校のクラス分けにつき照会。
- 7月30日 『名古屋大学史五十年史・通史』の正誤表発送。



## Nagoya University Archives

Nagoya University Archives(NUA) was founded in April 1996, as a inside measure in Nagoya University. NUA has its origins in the Office of the Compilation of the History of Nagoya University established in April 1985, which edited “Fifty Years History of Nagoya University”. The publication was planned as one of commemorative works for 50th anniversary of Nagoya University.

NUA collects and archives all kinds of historical materials on Nagoya University. Its purpose is not only the collecting of the above materials, but the research on the history of Nagoya University, moreover that of higher education. NUA’s holdings are institutional records, University or other publications, oral history collections, drawings, photographs, memorabilia collections, manuscripts, faculty papers and so on. NUA provides information and records created by, for, and about the University to faculty, staff, students, and the public for research.

The office consists of several teaching staffs of School of Education and School of Letters.

名古屋大学史資料室
室長 篠田 弘 (教授・併任)
専任室員 神谷 智 (助手)
中村 治人 (助手)
山口 拓史 (助手)
事務員 増田 よしみ

題字 加藤延夫総長

名古屋大学史資料室ニュース 創刊号  
Nagoya University Archives News No.1

発行日 1996年9月10日 (年2回刊)  
編集発行 名古屋大学史資料室  
名古屋市中種区不老町〒464-01  
電話(052)789-2046~2048  
印刷 株式会社荒川印刷  
名古屋市中区千代田2-16-38